

## 御挨拶

本日、沖縄県損害保険代理業協会が創立50周年という大きな節目を迎えるにあたり、公私共にご多忙のなか、本式典にご臨席賜りました皆様に厚く御礼申し上げます。半世紀という長い年月を歩んでこられたのは、ひとえに歴代会長をはじめとする先人たちのご尽力と、行政や保険会社とのパートナーシップ、そして何より保険制度を通して地域のみなさまと育んできた「ゆいまーる」の精神の賜物です。「ゆいまーる」とは沖縄の方言で助け合いを意味する言葉であり、まさに相互扶助という保険の機能そのものを表現する言葉でもあります。



沖縄は今年度、戦後80年を迎える節目の年でもあります。この地の損害保険の歴史は特殊な歩みを辿ってきました。当初はGHQ（琉球米軍司令部）の管理下において保険制度が導入され、戦後荒廃した土地の復旧を支える柱として発展しました。

初代会長である藤田英一氏が本会を設立した1975年は、沖縄国際海洋博覧会の開催という歓喜の裏で、本土復帰に伴う制度の激変に翻弄されていた時代でもありました。急激なインフラ整備に伴い各種保険の需要が爆発的に拡大する一方で、本土資本の保険会社が相次いで進出し、地元の代理店は熾烈な競争と、高度化する実務への対応に追われることとなりました。独自の商慣習から日本の保険ルールへの「適応」が求められる中、県民の資産と生活を守るべく当会を立ち上げた諸先輩方の不安と強い想いを、私たちは決して忘れてはなりません。

発足から50年、私たちは沖縄の成長と共に歩んでまいりました。しかし現在、業界を取り巻く環境は厳しさを増しています。自然災害の激甚化による収支悪化や、業界の信頼を揺るがす構造的課題、法改正による体制整備の高度化、そしてDX・AI活用への対応など、避けては通れない壁が立ちはだかっています。今こそ私たちは、戦後復旧の混乱期に先人たちが抱いた「不撓不屈」の精神に立ち返るべきだと考えています。

これからの時代、既存秩序の変化やレジリエンス（復元力）の強化、AI普及による消費者リテラシーの向上が一層加速していくでしょう。そのような中で沖縄県代協に求められることは、変化の先を照らす存在として必要な情報を発信し続け、会員一社一社の経営高度化を支援し、消費者の皆様の安心を支える一翼を担うことです。先行き不透明な時代だからこそ、原点となる「ゆいまーる」の精神に立ち返り、一歩先を行く代協を築くため、精進してまいります。

結びに、本日ご列席の皆様、および皆様を支える社員・ご家族のご健勝とご多幸、沖縄社会全体のさらなる発展を祈念いたしまして、私からの御礼の言葉とさせていただきます。

一般社団法人沖縄県損害保険協会 会長 大城 拓